『國民新報』1940年7月7日

[主張]　功利主義の没落[[1]](#footnote-1)

　ののは で、ベンサム、ミルがそのである。の がや のであるとするところまではいとして、そのと ふものがのにありとした スペンサーにりては[その極に達したと云へよう。] [[2]](#footnote-2)はにて デモクラシーをする のともなつてゐるので あつて、のを〝の″にいて めるのである。〝″といふがにもにものになつてしまつた。

　こゝにいてはものく のくのとせられたのである。してこののを のにまでげたのがにならない。

　デモクラシーは を産み、はを産んだ。を つきつめればにむことは で、かうなれば、はの へのといふ々しくも々しきととをし てしまふことゝなるのだ。

　そこでにいて につたのがイタリーのムツソリーニのフアシズムで、は、、の をば、よりへきしたのであり、は の、引いてはのののためにくべきものである。ついでつたのは ドイツのヒトラーだ。この二はをとのへとゐてしたのであつた。そしてつたのが のである。

　がにめるものが、じく ではないかといつてはならない。なる、がののをなすで あらうことは、にせられることであるが、が ので、きげたを せしめること、そのに、は 一のをめねばならない。もしが、につて に、の、をてゝ佛のなるに るならば、はからず、またのを むことであらう。はがあくまで、のよりれずして のをすことをらざるをない。

　さてわがが、や肇国の をじて、アジアののために ちがつた、アジアをの とすべきはふまでもないが、に いては、とをじうする のたるのにつべきは のである。にののにいて、かのは なることをなしたるか。は、蔣をけ、われに した。やにいて、にいて、つひには、らをせんために をしたのであるが、ににへぬ ものがある。のにつて がわれにをしたところで それがのぞ。をへぬのには、によりて さをらしむべきである。んや、のなる のに しみつゝあるアジアは、やわがにひのをめつゝあるにいておやである。

　のは した。のにはよりさしることであらう。

1. この文章では全般的に「わかちがき」がなされている。 [↑](#footnote-ref-1)
2. この部分は新聞では脱落し『同胞に寄す』で挿入されている。 [↑](#footnote-ref-2)